もりや仙一郎便り 県政報告 Vol.38

南三陸町 復興は商店街から
プレハブ商店街を視察

東日本大震災で被害にあった宮城県南三陸町の復興状況を視察しようと、2月上旬に天童市内の建設会社の職員に同行して頂き、現地を訪問しました。

震災時、私が最初に訪れたのが同町だったので、当時の悲惨な状態が思い起こされます。瓦礫の山に、無造作に散乱した子どもたちのランドセル。ズックやランドセル。声が出ない状態でありました。その後、1年10ヶ月のときが過ぎ、町は見事なエネルギーで復興へのみちを辿っております。重機があちこちで唸り、道路整備が着々と進んでいます。「まずは道路整備。建物は盛土整備が終わってから」という言葉通り、まだ新しい建物は見当たりません。

◀商店街中央

◀海産物を扱う商店で

そのようななか、高台のうえには「復興は商店街から」をモットーに『南三陸さんさん商店街』がオープンし、週末などには地元の方々や観光客などが訪れ、賑わいをみせています。ゲートをくぐるとそば屋や食事処、花屋や電気屋などの小売店、美容室や整骨院など約30店舗が軒を連ねるプレハブ商店街があります。特設ステージも配し、各種イベント等も催すそうです。私が訪れた時も、飲食店には観光客や復興作業に従事する作業員の方々が訪れていました。お店の方々に話を聞くと、観光地のような力強さと各店舗の復興にかける意気込みがひしひしと伝わってきました。

人々の交流を見ていると商売の原点に触れたような感じがします。人が集まるところには活気が生まれます。大変ながらも楽しく商売をしよう、人に来てもらうために工夫をしようという心意気は天童市の中心市街の発展のヒントになると考えさせられました。

ぜひ、皆さんも『南三陸さんさん商店街』を訪れてみて下さい。

天童 「長年の望みが叶った」
特別支援学校分校設置へ

かねてより要望活動を続けてきた特別支援学校の分校が天童市に設置されることが、県教育委員会より示されました。場所は検討中としておりますが、市内小学校に併設される形での開校となります。このことは障がい児が健常児童・生徒と交流する機会と親御さんの負担軽減に大きな成果をもたらすことでしょう。

現段階での施設内容は草案ですが、およそ20名規模のクラスを予定し、平成26年の開校、初年度は知的障がい児を受け入れる形となります。

天童市内の特別支援学級に通う生徒は79名、市外の特別支援学校に通う生徒は32名いらっしゃいます。(いずれも小・中学校あわせて) 今後は、様々な障がいを持った児童・生徒にも対象となるよう、施設拡大を要望して参ります。現在は、中学部の設置も要望中です。

以前、当県政報告で長野県須坂市の特別支援学校の視察内容を報告いたしました。先日には宮城県の利府支援学校富谷校も単独視察してまいりました。須坂市同様、健常児童と障がい児童が一緒の学び舎で行動をともにすることの素晴らしさを実感してきた次第です。大和副校長とも意見交換させてもらいましたが、このような支援教育のあり方は早急に進めなければなりません。今後も継続して子どもたちへの支援充実を図って参ります。

ご意見・ご要望もお寄せ下さい。

山形空港 貨物便の流通拡大を
那覇空港を視察

山形空港への貨物便増加し、当時の60倍に達しております。以前より沖縄への貨物は船便が多数ありましたが、全日空と構想が合致。空路を利用することでアジアの貨物を那覇空港に当日集荷し、翌朝にはアジア主要都市に届けることができるようになりました。取引に際し、各主要国はほぼ4時間圏内にあるため、沖縄県の立地上の戦略が見事に効果を発揮した政策でした。とくに北海道や静岡県などが積極的に那覇空港を利用してアジア各国に主要な特産物などを輸出しております。

私達が訪れたのは深夜1時～3時の間でしたが、約300人の従業員が忙しそうに勤務していました。若い方が多く働いていたのが印象的です。ハブ空港の稼働以来、本土からの企業や支店、営業所などが空港近くで多数、営業をはじめたため、雇用にも大きな成果があったとしております。

利用者拡大が直近の課題でもある山形空港ですが、貨物便のさらなる就航なども視野に空港利用の機会も検討すべきです。

現在の山形空港は東京1便、大阪3便の体制ですが、運航機材も小型のもので、貨物流通には適しておりません。なんといっても日本一のさくらんぼ生産地でありながら、主要都市への空路の確立はまだまだです。議会では、東北の貨物拠点としての山形空港活用を議論しております。今後は山形空港への貨物量増加と、県特産物のさらなる流通拡大にこの案件は寄与すると思います。また、県では広域医療搬送体制の整備を平成25年度事業として検討をしています。

モンテディオ山形本拠地移転発言
慎重な対応を望む

市川昭男山形市長のサッカーJ2モンテディオ山形の本拠地を移転し、山形市にドーム型の競技場を県と共同で建設する構想の表明は、あまりにも唐突でした。天童市民の皆様は困惑されたことと思います。本拠地移転は産業・観光にも大きく関係してきます。

2月22日の県議会常任委員会では、我々議員に何も通達されていない点や、山形市の構想内容と県の折衝がどの程度行われているのか等と指摘し、慎重な対応をするよう要望しました。吉村県知事は「最善の方向性を探る」にとどまりましたが、今後の出方に天童市としても慎重な意見を発信しなければなりません。現段階では情報収集に努めます。

この問題では天童・山形の両市民に加え、サポーター同士で意見や要望が交差するかもしれません。やはり県が主体となってリーダーシップを発揮することが大切です。

天童市は市民皆さまと一緒になってホームグラウンドとしてチーム発足時から応援を続けてきました。この経過を大事にし、今後、モンテのJ1復帰と、さらなる活躍が果たせるよう最善策の検討を繰り返して参ります。

もりや仙一郎事務所

ご意見を募集しております。 FAX・メール・ブログで頂けると幸いです。
こうして欲しい！ ココが問題！ 改善して欲しい…など

☎023-651-5539 FAX023-651-5549

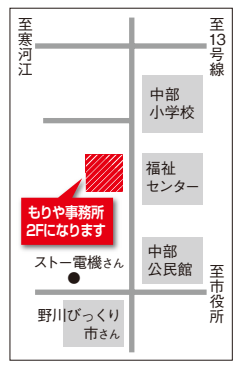
〒994-0013 天童市老野森3丁目4-17

もりや仙一郎 検索

新ホームページ http://www.10016.jp/

facebook 友達登録をお願い致します。

QRコードでアクセス



もりや仙一郎便り発行所／もりや仙一郎事務所 発行責任者／森谷仙一郎 この欄のご意見・ご質問などは、上記の、発行所までお寄せ下さい。